大先輩　西田敏行さんを偲んで

特集　西田敏行さん（本校開校37年卒業生）

小原田中学校での思い出を語る

十月十七日午後一時をまわった頃、テレビュー福島の奥秋さんから、小原田中学校に電話が入りました。『今、西田敏行さんが亡くなったという速報が入りました。学校に西田敏行さんに関するものとかあるでしょうか？』という内容でした。校長室前に、小原田中にお越しいただいた時の写真とサイン色紙が飾ってあったのでお伝えすると、すぐに来たいということであったので、教育委員会に確認し、取材を受けました。

あまりにも突然の訃報。他に何かあっただろうか、卒業アルバム、西田さんが載っている昭和三七年度を見つけました。他に、他に・・・。掛かっている写真に見かけた顔が、服部先生！。何か当時のことでエピソードはないか尋ねると、服部先生は当時記念誌の制作を担当していて、西田さんにも寄稿を依頼したと。そこにはピソードがありました。

その時の服部先生の談話を紹介します。

―前略―

これは十三年前に作成した小原田中学校の五十周年記念誌です。十三年前というと・・・そう、東日本大震災があった年です。

未曾有の災害に見舞われ、落ち込んでいる中で小原田中学校は創立五十周年を迎えました。記念式典を行うとともに、記念誌も発行することになりました。式典には本校卒業生で、日本を代表する俳優、西田敏行さんをお招きすることになっていました。そこで、せっかくだから記念誌にも寄稿してもらおうということでお願いすることになりました。そうはいっても、当時、すでに押しも押されもしない大俳優になっていた西田さん。

すべてお決まりの「事務所を通して」。これは大変だわ、と思いつつも事務所を通して寄稿をお願いしました。首を長くして原稿を待っている中、なんと、西田さん本人が小原田中学校に電話をかけてきたのです。「原稿書くの大変だから、今からしゃべるから、それを原稿にして」と。それからはてんやわんや。急いでペンと紙（レコーダーも準備しようとしたが駄目だったような・・・）を準備し、電話に出ました。

いつもテレビで聞いている明るい声が聞こえてきました。「質問してくれればそれに答えるから・・・」緊張しながら質問しましたが、西田さんはすべてに丁寧に、ユーモアを交えて答えてくれました。

最後にお祝いの言葉をいただいて終了。西田さんの温かさと郷土愛を感じました。

さて、記念式典当日。西田さんが校長室へお入りになっていく姿を拝見した時、あれっと思いました。体調を崩されていたのでしょうか、うつむきがちでなにとなく元気がないように感じました。大丈夫かなあと心配しながら体育館でお待ちしていました。体育館に入ってからの西田さんは、さっきの姿が嘘のように、明るく元気よく、お得意のユーモアを交えてお話してくださいました。これぞプロ魂と感心させられました。

改めて今、西田さんが書いてくださった文章を読んでみると、故郷への誇りと、小原田中生への期待がひしひしと感じられます。こんな素晴らしい先輩がいる我が小原田中学校。西田さんの期待に応えられるように、自分たちの故郷を大切にするとともに、小原田中生としての誇りをもち、よりよい小原田中学校にしていくよう、頑張っていきましょう。西田さんのためにも・・・。

―後略―

在校生は、西田さんが来校した震災の年前後に生まれた子どもたちです。西田さんがどんな方なのか、ピンとこない子も多いようです。この後すぐ、職員室前の掲示板に、西田さんの特設コーナーができました。西田さんの言葉でもありますが、大先輩が生まれ育った大好きな小原田で、地域の皆様に温かく見守られて生活していることに、改めて感謝する、そんな機会をいただきました。

文化の祭典　友垣祭

十月二十五日（金）小原田中学校の学校祭、友垣祭を開催しました。

中学校の学校祭は、一年のうちで、子どもたちが最も主体的に活動し、仲間との協働により、絆を深めることのできる機会であると考えます。

一年生にとっては初めての、三年生にとっては二回目の、この経験値の違いがもたらす化学変化を、今回も間近に目の当たりにすることができました。それが、最も顕著に表れるのがクラス合唱です。本校は、二年生からスタートするため、また、事前に学年縦割りでの練習会もあったりして、多少ネタばれ的な状況であり、一年生に痛烈な衝撃として残ることは無かったかも知れませんが、それでも十分な影響を受けたと思います。

開会前、突然円陣を組んで気落ちを盛り上げる二年生の姿にびっくりし、さらには変声期もある程度落ち着いた歌声を聴いて、否が応でも緊張が高まる一年生。いよいよ自分の番、懸命に力を出し切ろうと頑張る一年生の、その元気な歌声に、自分たちももう少しできたのでは、と振り返る二年生。後輩達の姿を一通り見て、自分たち同学年の勝負を確信し、一層気合いが入る三年生。

演奏がスタートすると、しっかりと歌い込んできた声の響きは、後輩を圧倒し、聴衆の心を動かします。後輩が、憧れと目標をもつ瞬間です。「あんな風に歌えるようになりたい」。「あんな事ができるようになりたい」。二年生、一年生の頭の中では、もう来年の友垣祭がスタートしています。やり切った三年生の心には、仲間との絆という大きな財産ができました。この化学変化が、ここから先の彼らに成長を促し、様々な面でそのスピードを加速させます。今後の子どもたちの学校生活が楽しみです。

［教育目標］
健自責
康主任

小原田中だより

令和６年１０月号
郡山市立小原田中学校
校長　関根宏房

ホームページＵＲＬ
https://koriyama.schoolweb.ne.jp/0720007